

ラファエル・ゲーラ
Rafael GUERRA

メキシコの北部シナロア州に生まれ、幼少よりピアノに親しむ。メキシコ市では国際的にもメキシコを代表するコンサート・ピアニストのホルヘ・フェデリコ・オソリオに師事、その後アメリカに留学。ニューヨークのマンハッタン・スクール・オブ・ミュージックに於いて、アルカディ・アロノフのもとで学び学位を取得。オハイオ州立シンシナティ大学の修士課程に進み、ピアノをウィリアム・ブラック、室内楽をジェームス・トッコ、サンドラ・リバーズに師事する。ニューオリンズ・ピアノコンクールにて第1位、ニューヨークのコンサート・アーティスト・ギルドのファイナリスト、サン・アントニオ・ピアノコンクールにて委嘱作品最優秀賞を受賞。メキシコ、アメリカを中心にオーケストラとの共演、ソロおよび室内楽ピアニストとしても活躍したが、1997年より活動の拠点を日本に移し、ソロリサイタルや、アマデウス・アンサンブルオーケストラ、モーツァルト・アンサンブル・オーケストラとの共演のほか、黒沼ユリ子、名倉淑子、平松英子、浦川宜也、加藤知子ら著名な演奏家達との共演でも高く評価され、クライネス・コンツェルト・ハウス室内楽シリーズへも連続出演など幅広く、多方面での意欲的な演奏活動が注目を集める。2011、12、13年と続けて開かれたアドリアン・ユストゥス、黒沼ユリ子との東京・名古屋ほか各地での演奏は音楽誌でも好評を博す。2008年度には客員教授としてフェリス女学院大学に招かれる。後進ピアニストの指導の他、ピアノ指導者への指導、演奏法講座などでも活躍中である。

